



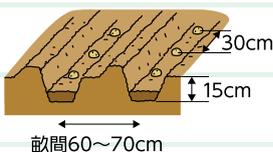
ジャガイモ (ナス科ナス属)

休眠の明けた芽は5度程度で活動が始まるため、早植えして発芽した芽は遅霜の被害を受けます。生育適温は10〜23度で、涼な気候を好みます。

【品種】 ホクホクした粉質の「男爵薯」「キタアカリ」や、アンデスの栗ジャガと呼ばれる「インカのめざめ」、ねっとりした粘質の「メークイン」「レッドムーン」など料理に向けた品種を選びましょう。秋作を行うには「デジマ」「ニシユタカ」など休眠の浅い品種を使います。

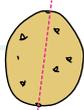
【畑の準備】 植え付け2週間前に1平方メートルあたり苦土石灰50gを施しよく耕し、1週間前に、畝間60〜70cm、深さ15cmの溝を掘り、畝1m当たり普通化成肥料100gと堆肥1kg程度を施し、土を戻してよく混ぜておきます(図1)。

図1 畑の準備



【植え付け】 種イモの大きさは1個30gくらいが良く、大きいイモは各片に頂部に芽が付くように3〜4片に縦切りします(図2)。切り口は、日陰で短時間乾かしておきます。元肥の上に少し土を戻し、種イモの切り口を下にして、株間30cmに植え付け、7〜8cmの覆土をします。マルチ栽培をすると雑草を防ぎ、地温が上がるため収穫期が1

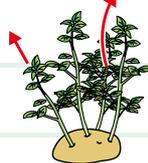
図2 種イモの切断



週間程度早まります。この場合、種イモを植え付け後、黒色ポリフィルムを張り、芽先がフィルムを持ち上げたら、フィルムを破り上に出します。なお、発芽後の遅霜被害対策として、不織布のべた掛けがお勧めです。

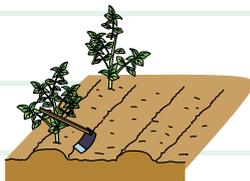
【芽かき】 芽が10cmくらいに伸びた頃、強い芽を2本残して他はかき取ります(図3)。

図3 芽かき



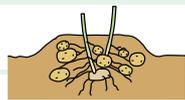
【追肥・土寄せ】 芽が15〜20cmの頃、畝1m当たり普通化成肥料50gを畝の両側にまき、5cm程度の厚さに土寄せをします。2回目の土寄せは同じように行います。土寄せは十分し、イモの露出を防ぎます(図4)。マルチ栽培ではマルチの裾を上げて追肥をします。

図4 追肥・土寄せ



【収穫】 開花後2〜3週間経過後、新ジャガを楽しめますが、葉が枯れ始めてから掘り取れば充実したイモになります。晴天が続いた日にイモを傷付けないように掘り取ります(図5)。

図5 収穫



※関東南部以西の平たん地を基準に記事を作成しています。

栽培計画

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
暖地・中間地		●				●						
暖地・中間地 (秋植え)								●			●	

● 植えつけ ● 収穫



植え付けまでの事前準備

ジャガイモは連作を嫌いますので、3〜4年は同じナス科(ピーマン・トマト・ナスなど)の後にジャガイモを植えるのは避けましょう。

植え付けの2〜3週間前から、種イモの芽出しをします。芽出しをするときよりも発芽がそろって、その後の生育が良くなります。

管理

花が咲く頃に土中のジャガイモは大きくなり出します。花に栄養分がとられないように花を見つけたら摘んでおきましょう。

病害虫

・そうか病

いもの表面にかさぶたのような病斑ができます。

多発する土壌では、種イモの植え付け前に「フロンサイド粉剤」を散布すると効果的です。

・テントウムシダマシ

テントウムシに似ていますが、背中の点の数が多く害虫のテントウムシです。

幼虫も成虫も葉をひどく食害し丸坊主になってしまふこともあるので、見つけたら駆除をしてください。

JAグリーン津店が教える！
津店が教える！
ジャガイモ栽培のポイント！

JAグリーン津店
グリーンアドバイザー認定
城博一